

新古河市と古河公方御料所

先月は三市町合併の歴史的経緯について触れましたが、今月は時代をさかのぼってこの地方に共通する古河公方について見ていきましょう。

ところで今年は鎌倉公方足利成氏が鎌倉から古河に座を移してから550年になります。

鎌倉公方とは足利尊氏が京都の室町に幕府をひらくと、東国支配のため鎌倉に鎌倉府を開設し、息子の基氏を派遣します。これを鎌倉公方あるいは関東公方と呼んでいます。

ところが鎌倉公方4代持氏は、室町幕府と衝突し敗れて自害、鎌倉府も滅亡します。その

子、成氏が北関東の有力豪族の支援を受けて、一旦は幕府に許され鎌倉府を再興しますが、まもなく幕府に抗して軍を起し鎌倉から古河に座を移します。以後、5代120余年、古河公方として古河に城下を形成します。

この間の経済的基盤となったのが古河公方御料所です。元は鎌倉府が支配していた領地の一部です

が、そのなかに、かつての下河辺荘や幸島荘が含まれています。下河辺荘は平安時代末期、小山氏の一族下河辺氏によって開発された広大な土地です。

また公方の重臣としては、関宿城・水海城(総和町)を拠点にした築田氏や古河城・栗橋城(五霞町)を拠点にした野田氏があります。三和町を拠点にした山川氏も公方を支えています。



足利義氏宛行状(野田家文書)部分
天文23年(1554)に、古河公方足利義氏が野田氏に宛てた所領のなかに、古河周辺(上中田・牛谷・小堤・大野等)の地名がみえる。

を支えていました。さらに水陸の運送・商業・職方に従事した人々が、土地や職業上の権利を安堵されました。今でもこの地方に古河公方の家臣という家が見られますが、徳川政権への移行期に在地に帰農し土地の開発や村の名主として存続しました。

こうして今でこそ、古河・総和・三和は行政地区を異にしていますが、かつては古河公方の御料所に包括され政治・経済・社会活動を共有していました。今、ときを超えて社会体制こそ違い御料所の一部が復活したともいえます。

古河歴史博物館学芸員 鷲尾政市